

平成 26 年（2014 年）御嶽山噴火非常災害対策本部
第 1 回本部会議

議 事 次 第

日時：平成 26 年 9 月 28 日（日） 19：00～
場所：合同庁舎 8 号館 3 階災害対策本部会議室

1. 山谷非常災害対策本部長 挨拶
2. 西村非常災害対策副本部長からの政府調査団報告
3. 今後の噴火活動の見通しについて
4. 被害状況及び各省庁の対応状況について
5. その他

平成26年9月28日14:30

捜索関係府省庁 担当局長殿

内閣危機管理監

捜索活動の安全確保について

1. 被害者の迅速な救出・救命に全力を尽くすこと
2. 火山活動の監視、滑落の防止等、捜索従事者の安全確保に万全を期すこと
3. 危険を察知した場合には、直ちに作業を中断し、安全なところに退避すること

1 気象庁

御嶽山の噴火状況等について

平成26年9月28日
18時00分現在
気象庁

1. 火山活動の状況(9月28日18時現在)

- ・御嶽山では、本年9月10日から11日にかけて火山性地震が一時的に増加したものの、その後火山性地震は減少していた。
- ・9月27日11時41分頃から火山性微動が発生し始め、同11時52分頃に噴火が発生した。中部地方整備局が設置している滝越カメラによれば南側斜面を噴煙が流れ下り、3キロメートルを超えるのを観測したため、噴火警戒レベル3(入山規制)を発表し、火口から4キロメートル以内に立ち入らないように呼びかけている。噴火は現在も継続している。
- ・御嶽山で噴火が発生したのは平成19年(2007年)3月下旬のごく小規模な噴火以来のこと。
- ・9月27日に気象庁が降灰の拡がりについて聞き取り調査を行った結果、御嶽山の西側の岐阜県下呂市萩原町から東側の山梨県甲府市飯田にかけての範囲で降灰が観測されている。
- ・9月28日中部地方整備局の協力で実施した上空からの観測によると、御嶽山山頂付近に北西から南東方向に伸びる火口列が見られ、複数の火口から白色の噴煙が勢いよく火口上1000メートルまで上昇するのが認められ、ときおり火山灰交じりの薄灰色の噴煙が認められました。
- ・9月28日15時現在、噴煙は火口縁上300mまで上がっています。

2. 気象の見通し(9月28日18時現在)

- ・御嶽山の山頂付近では、3メートル程度の北よりの風が吹いていると見られる。今夜28日は、北よりの風1～4メートル、明日29日は、北西の風5～7メートル、夜は西よりの風9～11メートルの見込み。
- ・長野県南部、岐阜県飛騨地方の天気は、今夜28日、明日29日共に、高気圧に緩やかに覆われて概ね晴れるが、朝晩は湿った空気の影響で雲が多い見込み。

3. 気象庁がこれまでに取った措置(9月28日18時現在)

- ・御嶽山の火山活動状況について、御嶽山周辺の地震計、空振計、傾斜計、遠望カメラ等の観測ネットワークにより、24時間体制で監視中。
- ・噴火警報等を発表するとともに、地元自治体をはじめ、関係機関に対する解説及び資料の提供を各地方気象台より適宜実施。

- ・気象庁機動調査班(JMA-MOT)を現地に派遣して、噴火の状況や降灰の状況等の調査を実施(長野地方気象台:9月27日13時55分～23時頃、気象庁:9月27日15時40分～)
- ・降灰の拡がりについて気象台から自治体等への聞き取り調査を実施(9月27日～)
- ・火山活動状況に関して記者会見(9月27日14時30分)
- ・御嶽山山頂部における救助活動の実施にあたっての留意事項について長野・岐阜両県等関係機関に周知(9月27日)。
- ・長野県の災害対策本部会議に出席(9月27日～)
- ・長野県、岐阜県、各県内関係市町村及び地方整備局等の関係機関に対して、気象支援資料を提供(9月28日5時～1日2回の提供)
- ・国土交通省中部地方整備局のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認(9月28日午前)
- ・陸上自衛隊のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認(9月28日午後)
- ・気象庁機動調査班により火山ガス観測等を実施(9月28日)

【噴火警報等の発表状況】

○9月11日～16日 火山の状況に関する解説情報を3回発表し、火山性地震が増加していること、今後の火山活動の推移に注意することを呼びかけた。

○9月27日12時00分～ 噴火に関する観測報を随時発表し噴火が発生していることを知らせる

○9月27日12時02分～ 航空路火山灰情報を発表し、航空機に対する情報を提供

○9月27日12時36分 噴火警報(火口周辺警報)を発表し、周辺の市町村・住民に警戒を呼びかける

・噴火警戒レベル

レベル1(平常) → レベル3(入山規制)

※御嶽山の噴火警戒レベル3は、平成20年3月31日の噴火警戒レベルの運用開始以来初めて。

・警戒対象市町村

長野県 : 王滝村、木曾町

岐阜県 : 高山市、下呂市

・防災上の警戒事項

①火口から4キロメートル程度の範囲では大きな噴石の飛散等に警戒が必要

②風下側では4キロメートル以遠も含めて降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)に注意が必要

③爆発的な噴火に伴う大きな空振に注意が必要

○9月 27 日 13 時 35 分 ～ 降灰予報を約6時間毎に発表し、降灰の予想される地域を図示

○9月 27 日 16 時 ～ 火山の状況に関する解説情報を概ね3時間毎に発表

4. 気象庁の今後の対応(9月 28 日 18 時現在)

- ・御嶽山の火山活動等について検討を行うため、火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し(9月 28 日 16 時)、見解を発表(同日 19 時頃)
- ・現地対策本部に東京管区气象台気象防災部長他 2 名を派遣する予定(9月 28 日 22 時頃)。

【19時30分解禁】

報道発表資料
平成26年9月28日
気象庁

御嶽山の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

御嶽山では、9月27日11時52分頃に火砕流を伴う噴火が発生しました。その後も火山活動が高まった状態となっており、今後も噴火が発生する可能性があります。

御嶽山では、9月27日11時52分頃に噴火が発生しました。今回の噴火の規模は1979年の噴火と同程度と考えられます。火砕流が南西方向に3キロメートル以上流下し、気象レーダーの観測によると噴煙は東に流れ、その高度は火口上約7,000メートルと推定されます。その後の上空からの調査によると、噴火は剣ヶ峰山頂の南西側で北西から南東にのびる火口列から発生したとみられ、大きな噴石が火口列から1キロメートルの範囲に飛散しているのが確認されました。火砕流は発生しましたが、地獄谷付近で樹木等が焦げたような痕跡は認められませんでした。また、噴出した火山灰には新鮮なマグマに由来する物質は確認されておらず、今回の噴火は水蒸気噴火であったと考えられます。御嶽山で噴火が発生したのは2007年以来です。

この噴火の11分前から発生し始めた火山性微動は、噴火発生以降、振幅の大きい状態が約30分間続きました。また、傾斜計により、噴火の7分前から山側が隆起、噴火後からは山側が沈降するような変化が観測されました。

御嶽山では、1979年に有史後初めての噴火が発生し、1991年、2007年にもごく小規模な噴火が発生しました。それ以降、火山活動は概ね静穏に経過してきましたが、今年9月10日から11日にかけて剣ヶ峰山頂付近を震源とする火山性地震が一時的に増加し、14日以降は低周波地震が時折発生しました。火山性地震は次第に減少していました。地殻変動や山頂部の噴気活動には、特段の変化はみられていませんでした。今回の噴火前の変化は、ごく小規模な噴火が発生した2007年の状況に比べても小さいものでした。

9月27日の噴火以降、山頂火口からの噴煙活動が活発な状態で、火山性微動が振幅は小さくなりつつも9月28日15時時点で継続しており、また、火山性地震が多い状態となっているなど、御嶽山の火山活動は高まった状態で推移しています。このことから、今後も同程度の噴火が発生し、火砕流を伴う可能性があります。

一方、GNSSによる地殻変動観測では特段の変化は観測されておらず、現時点で大規模な噴火につながる兆候は認められません。

噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

御嶽山の火山活動に係る被害状況等について（第4報）

（これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。）

平成26年9月28日（日）18時00分
 消防庁災害対策本部
 ※下線部は前回からの変更箇所

1 火山の状況（気象庁情報）

- ・9月27日11時53分頃、御嶽山で噴火が発生した。
- ・山頂火口の状況は視界不良のため不明だが、中部地方整備局が設置している滝越カメラにより南側斜面を噴煙が流れ下り、3kmを超えるのを観測した。
- ・今後も居住地域の近くまで影響を及ぼす噴火が発生すると予想される。
- ・山頂火口から4km程度の範囲では、噴火に伴う大きな噴石の飛散等に警戒が必要。
- ・気象庁は、9月27日12時36分、噴火警戒レベルを1（平常）から3（入山規制）に引上げ。また、同日13時35分に降灰予報を発表した。

2 被害の状況

(1) 人的被害

長野県

心肺停止 31名確認（うち4名を搬送）

負傷者 30名（重症1名、中等症9名、軽症20名）

行方不明者 確認中

※負傷者は、病院搬送者を集計したもの。

岐阜県

負傷者 7名（重傷2名、軽傷5名）

行方不明者 なし

(2) 建物被害

確認中

3 地方公共団体における災害対策本部等の設置状況

長野県 9月27日 13時20分 警戒対策本部設置
 → 27日 14時10分 災害対策本部へ移行
 岐阜県 9月27日 13時15分 火山災害警戒本部設置

4 消防機関の活動

(1) 地元消防機関の活動状況

長野県：木曾広域消防本部が約60名体制で活動。

長野県防災ヘリコプター1機が救急搬送等に備え、松本空港に待機。

木曾町消防団及び王滝村消防団が約20名体制で活動。

岐阜県：下呂市消防本部が約10名体制で活動。

岐阜県防災ヘリコプター1機が救急搬送等に備え、濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターに待機。

下呂市消防団幹部が下呂市災害対策本部で活動。

(2) 県内応援消防本部の活動状況

長野県：県内13本部（木曾広域消防本部を除くすべての消防本部）が約100名体制で活動。

岐阜県：岐阜市消防本部及び高山市消防本部が約10名体制で活動。

(3) 緊急消防援助隊

○平成26年9月27日20時30分、長野県知事から消防庁長官に対して、緊急消防援助隊の派遣要請。

○ただちに消防組織法第44条第1項に基づき、消防庁長官から火山性ガス検知資機材（LCD3.3）を保有する高度救助隊及び山岳救助隊について、愛知県、静岡県、東京都及び山梨県の4都県に対して、出動要請。

○愛知県、静岡県、東京都及び山梨県4都県合計約210名体制で活動。

（内訳）

東京都隊約70名、山梨県約50名、静岡県隊約40名、愛知県約50名

（参考）

- ・指揮支援隊として、長野県庁で東京都隊1隊3名、木曾広域消防本部で愛知県隊1隊4名が活動。
- ・陸上隊は、進出拠点（道の駅 木曾市場）に28日4時に到着した後、各災害現場において活動。
- ・東京消防庁ヘリコプター（消防庁ヘリ/ヘリサット搭載）が情報収集活動を実施。

5 消防庁の対応

9月27日	14時30分	応急対策室長を長とする災害対策室を設置
	19時28分	関係省庁局長級会議に消防庁次長が出席
	20時20分	国民保護・防災部長を長とする災害対策本部を設置
	20時30分	長野県知事から消防庁長官に対して、緊急消防援助隊の派遣の要請
		同時刻に消防組織法第44条第1項に基づき、消防庁長官から火山性ガス検知資機材（LCD3.3）を保有する高度救助隊及び山岳救助隊について、愛知県、静岡県、東京都、山梨県の4都県に対して出動要請
9月28日	6時00分	緊急消防援助隊の活動調整等のため、消防庁職員1名を長野県に派遣
	17時00分	消防庁長官を長とする災害対策本部へ改組

問い合わせ先
消防庁災害対策本部
五十嵐・近藤・稲勝・牧原
TEL 03-5253-7512
FAX 03-5253-7537

御嶽山噴火における人命救助に係る災害派遣について

1. 経緯

平成26年9月27日（土）11時53分頃、御嶽山で噴火が発生。同日14時31分、長野県知事から陸上自衛隊第13普通科連隊長に対し、人命救助に係る災害派遣要請があった。

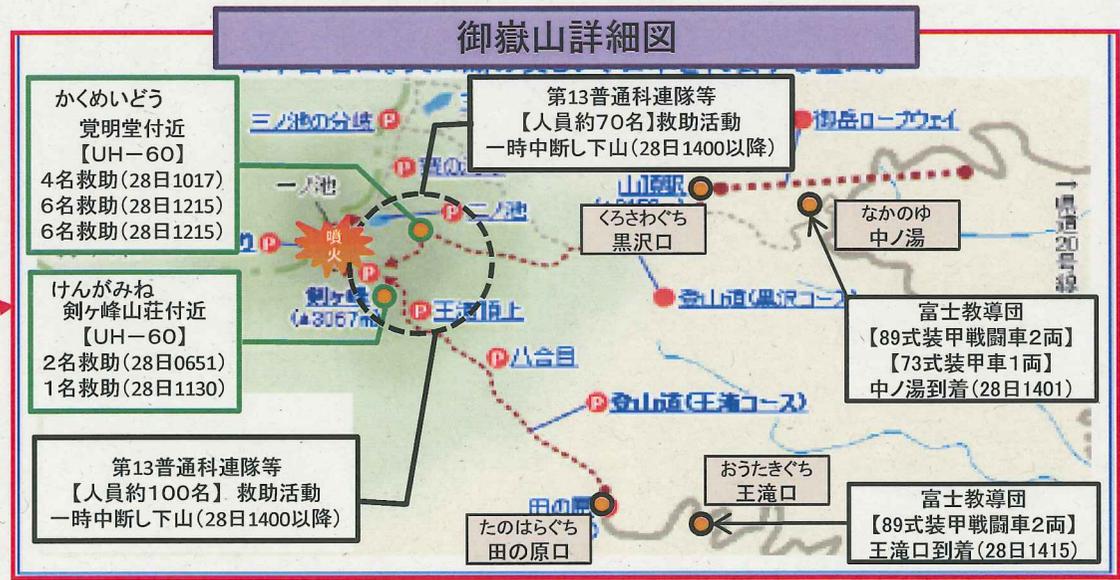
2. 対応（26.9.28 1815現在）

◇ 派遣規模 人員約270名、車両約75両（89式装甲戦闘車4両、73式装甲人員輸送車1両を含む）、航空機12機

- 第13普通科連隊(松本)：人員約160名、車両約40両
- 第2普通科連隊(高田)：人員約80名、車両約20両
- 第12偵察隊(松本)：人員約20名、車両約10両
- 富士教導団(富士)：人員約10名、車両5両
- 第12ヘリコプター隊(相馬原、北宇都宮)：航空機9機(OH-6×2、UH-60×4、CH-47×3)
- 東部方面航空隊(立川)：航空機3機(UH-1×2、OH-6×1)

◇ 活動内容 航空偵察（映像配信）、人命救助（19名）、心肺停止者の搬送（4名）

- 山頂付近一帯の航空偵察を実施。
- 黒沢口（人員約70名）及び田の原口（人員約100名）の両登山口より徒歩で山小屋等に向け前進し、到着後救助活動を実施。
- UH-60によるホイスト吊り上げ等により、けんがみね 剣ヶ峰山荘付近で3名、かくめいどう 覚明堂付近で16名をそれぞれ救助。
- 火山ガスの影響により活動を一時中断し、王滝登山道を下山時に、心肺停止者（4名）を搬送。



御嶽山の火山活動に関する国土交通省の対応状況

1. 噴火の概要（気象庁）

- 27日 11:52 頃噴火 平成19年の3月下旬以来。
- 27日 12:36 火口周辺警報、レベル1→3（入山規制）に引き上げ。平成20年（レベル導入）以来。
- 火口から周辺4km付近内では噴石に注意。
- 27日 14:30 気象庁記者発表。
- 27日 気象庁の聞き取り調査によると、御嶽山の西側の岐阜県下呂市はぎわらちょう萩原町から東側の山梨県甲府市飯田にかけての範囲で降灰。
- 28日 7:00 現在、上空3000mでは北の風5m/s程度、夜まで北の風1~3m/s程度が続く見込み。
- 今後の天気は、28日、29日共に概ね晴れるが、朝晩は雲が多い。

2. 国交省の対応—被災者（入山者）の救助に総力

① 救助、下山支援

【9/27(土)】

○15:15 官邸リエゾンを派遣。

○19:10 より濁河温泉（下呂市側）の下山道にて国交省の照明車両による徒歩下山者支援を実施。

【9/28(日)】

●災害対策用機械13台が稼働中。

・3:00 時点で照明車両5台が徒歩下山者および自衛隊等入山の支援のため稼働。

・木曽町の要請を受け、町道の降灰除去作業を中部地整の路面清掃車3台、散水車2台で実施。町道鹿ノ瀬線の降灰除去は4:20 作業完了。

・衛星通信車2台、Ku-SAT1 台によりヘリ画像等を通信中。

○リエゾン11名派遣中（王滝村1名、木曽町1名、長野県庁2名、長野県木曽地方事務所1名、高山市2名、下呂市2名、岐阜県庁2名）。

●TEC-FORCE の派遣

・中部地方整備局より、19名派遣（9/27：13名派遣）。

●11:51 防衛省と調整し、「9月28日12時00分から追って通知するまで、すべての有視界飛行方式で飛行する航空機は、御嶽山周辺で救難活動が行われているため他の航空機に特に注意すること。」を内容とする航空情報（ノータム）を発行。

②二次災害防止対策

【9/27(土)】

- 16:05 防災ヘリによる上空調査により、山頂南西側大きく開いた3カ所の噴火口、山頂付近に厚さ50cmの降灰を確認。(ヘリからの目視確認)
- 土砂災害防止法に基づく緊急調査のため、国総研・土研より砂防専門家3名を現地に派遣。

【9/28(日)】

- 5:45 から噴火・降灰の状況把握と二次災害防止対策を検討するための防災ヘリによる緊急調査を実施(砂防専門家3名等)。
- 地上における降灰状況調査に着手。
- 長野県、岐阜県、各県内関係市町村及び地方整備局等の関係機関に対して、気象支援資料を提供(5:00から1日2回の提供)。
- 救助活動中の二次災害を防止するため、今後の注意事項をとりまとめた「救助活動等における土砂災害への警戒について」を配布。
- 今後の応急対策に資する備蓄資材を確保済み。

③その他

- 長野県道1路線、木曾町道4路線、王滝村道1路線で入山規制に伴う事前通行規制を実施中。
- 27日13:35以降、気象庁から降灰予報を約6時間毎に発表している。
- 御嶽ロープウェイ運休中。
- おんたけ交通 バス2路線運休中。
- 気象庁発表の火山灰情報に基づき、火山灰の影響する高度、移動方向等に関する航空情報(ノータム)を発行(27日12:21)。
- 28日 欠航便情報2便(ジェットスター)。

3. 体制等について

本省：非常災害対策本部(非常体制)

国土地理院：非常体制、気象庁：非常体制

中部地整：非常体制、中部運輸局：注意体制

関東地整：注意体制、北陸信越運輸局：注意体制

<会議等>

【9/27(土)】

- 14:25 大臣防災センター登庁(対策を指示)
- 14:40 第1回大臣、中部地整局長テレビ会議
- 15:43 第2回大臣、中部地整局長テレビ会議
- 16:40 関係省庁災害対策会議(第1回)。
- 17:10 関係閣僚会議(太田大臣出席)。

【9/28(日)】

○10:13 御嶽山の火山活動に関する国土交通省関係局長等会議。

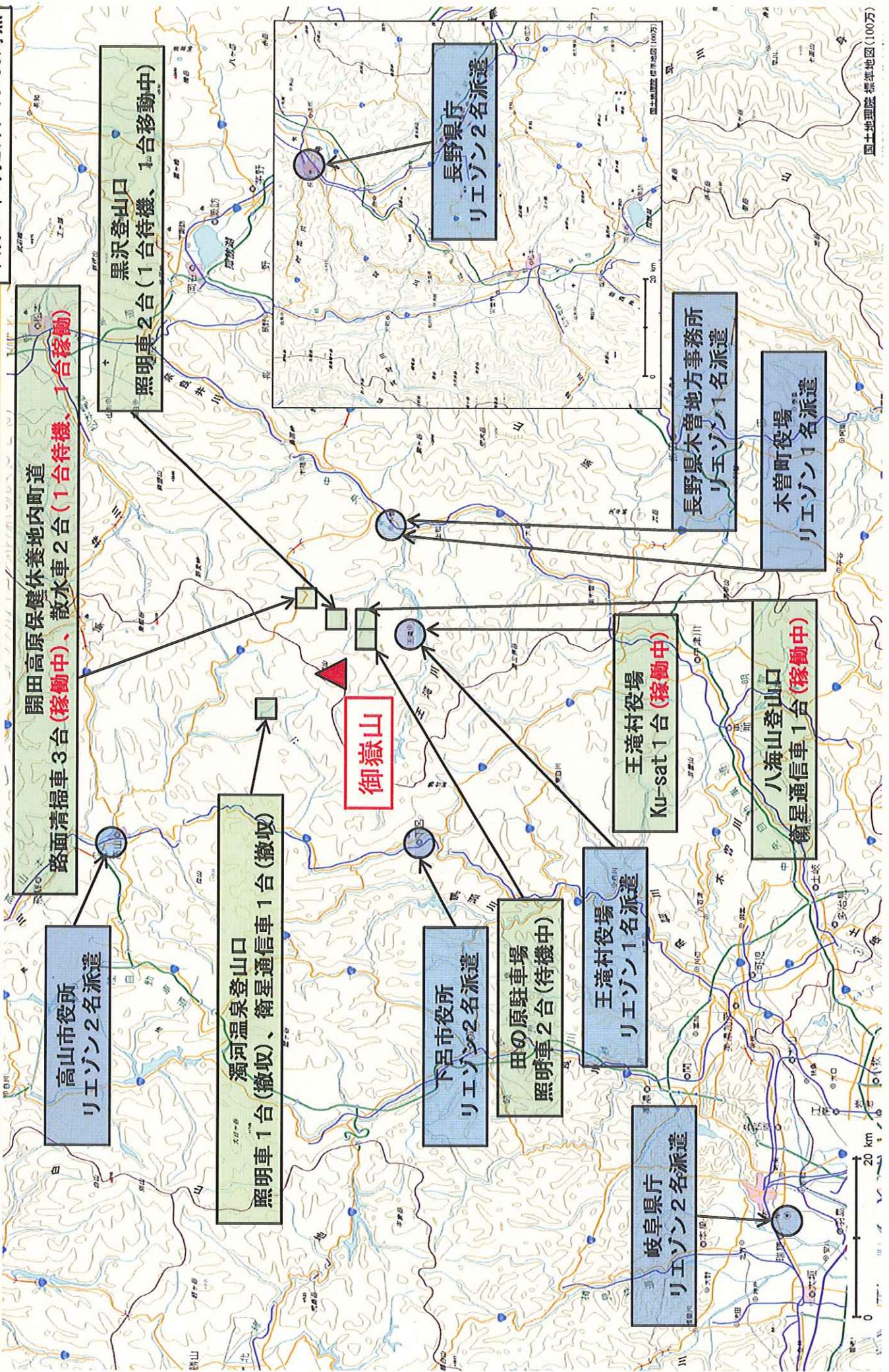
○13:00 関係省庁災害対策会議（第2回）。

●17:00 政府非常災害対策本部を設置。

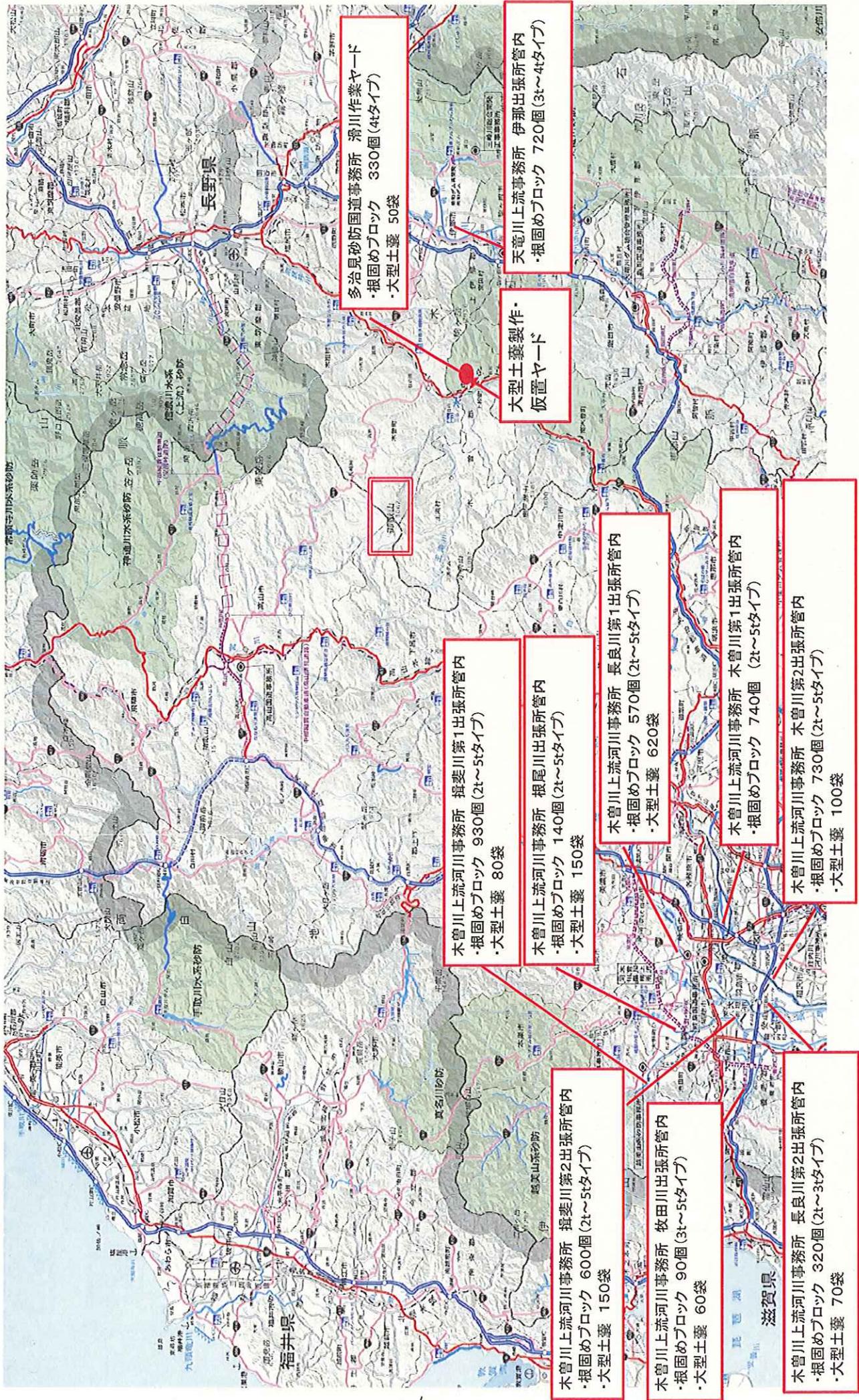
○19:00 政府非常災害対策本部会議。

■御嶽山の噴火に伴うリエゾンおよび災害対策車両の派遣状況

国土交通省 防災センター
平成26年9月28日 16:30時点



応急対策用 備蓄資材一覧



御嶽山の噴火による被害状況等について（第3報）

1. 本省及び地方支分部局の体制について

国土交通本省	9月27日	12:36 注意体制			
		13:45 非常体制			
	(9月28日)	17:00 非常災害体制本部)			
関東地方整備局	9月27日	14:00 注意体制	北陸信越運輸局	9月27日	12:50 注意体制
中部地方整備局	9月27日	12:36 警戒体制	中部運輸局	9月27日	15:00 注意体制
		14:45 非常体制			
国土地理院	9月27日	12:36 注意体制	気象庁	9月27日	12:36 警戒体制
		13:45 非常体制			17:00 非常体制

2. 噴火の概要

- ・ 9月27日11時41分頃から火山性微動が発生し始め、同11時52分頃に噴火が発生した。中部地方整備局が設置している滝越カメラによれば南側斜面を3キロメートルを超えて流れ下る噴煙を観測したため、噴火警戒レベル3（入山規制）を発表し、火口から4キロメートル以内に立ち入らないように呼びかけている。なお、火山性微動が継続していることから現在も噴火が継続していると推測される。
- ・ 御嶽山で噴火が発生したのは2007年（平成19年）3月下旬のごく小規模な噴火以来のこと。
- ・ 9月27日に気象庁が降灰の拡がりについて聞き取り調査を行った結果、御嶽山の西側の岐阜県下呂市萩原町から東側の山梨県甲府市飯田にかけての範囲で降灰が観測されている。
- ・ 9月28日中部地方整備局の協力を実施した上空からの観測によると、御嶽山山頂付近に北西から南東方向に伸びる火口列が見られ、複数の火口から白色の噴煙が勢いよく火口上1000メートルまで上昇するのが認められ、ときおり火山灰交じりの薄灰色の噴煙が認められました。

【噴火警報の発表状況等】

- 9月27日12:36 噴火警報発表（火口周辺警報）
噴火警戒レベル1（平常） → レベル3（入山規制）
※噴火警戒レベル3は、平成20年3月31日の御嶽山の噴火警戒レベルの運用開始以来初めて。
- 対象市町村等
 - ・ 長野県：王滝村、木曾町
 - ・ 岐阜県：高山市、下呂市
- 防災上の警戒事項
 - ・ 火口から4キロメートル程度の範囲では大きな噴石の飛散等に警戒が必要
 - ・ 風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要
 - ・ 爆発的な噴火に伴う大きな空振に注意が必要
- 9月27日13時35分 ~ 降灰予報を約6時間毎に発表し、降灰の予想される地域を図示

3. 気象の見通し

- ・今日28日15時現在、御嶽山の山頂付近では、3メートル程度の北よりの風が吹いていると見られる。今日28日は、夜まで、1～3メートル程度の北よりの風が続く見込み。
- ・長野県南部、岐阜県飛騨地方の天気は、今日28日、明日29日共に、高気圧に緩やかに覆われて概ね晴れるが、朝晩は湿った空気の影響で雲が多い見込み。

4. 国土交通省の対応

- 9/27 14:25大臣防災センター登庁（対策を指示）
- 9/27 14:30気象庁記者会見
- 9/27 14:40第1回大臣、中部地整局長テレビ会議
- 9/27 15:20離陸。中部へりによる調査
- 9/27 15:43第2回大臣、中部地整局長テレビ会議
- 9/28 10:30御嶽山の火山活動に関する国土交通省関係局長等会議を開催

○リエゾン（情報連絡員）の派遣

- ・官邸リエゾンを派遣（9/27～28）
- ・中部地方整備局より、長野県庁へ2名派遣（9/27）、3名派遣（9/28）、長野県王滝村1名（9/27～28）、長野県木曾町1名（8/27～28）、岐阜県庁へ1名派遣（9/27）、2名派遣予定（9/28）、岐阜県高山市へ2名派遣（9/27～28）、岐阜県下呂市へ2名派遣（9/27～28）。
- ・北陸地方整備局より、岐阜県高山市へ1名派遣（9/27）。

○専門家の派遣

- ・国総研、土研より砂防専門家3名を派遣中

○災害対策用機械等出動状況（9月28日15:00現在）

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
中部地整	長野県木曾郡王滝村（田ノ原駐車場）	下山者支援、自衛隊等救助支援	照明車	2	稼働後待機	9月27日～
中部地整	長野県木曾郡木曾町（黒沢登山口）	下山者支援	照明車	1	稼働後待機	9月27日～
中部地整	長野県木曾郡開田村（開田登山口）	下山者支援	照明車	1	稼働後移動	9月27日～9月28日
	長野県木曾郡木曾町（黒沢登山口）				待機中	9月28日～
中部地整	岐阜県下呂市小坂町（濁河温泉登山口）	下山者支援、自衛隊等救助支援	照明車	1	稼働後撤収済	9月27日～9月28日
中部地整	長野県木曾郡木曾町（町道鹿ノ瀬線）	降灰清掃	路面清掃車	1	稼働中	9月27日～
中部地整	長野県木曾郡木曾町（開田高原保険休養地内町道）	降灰清掃	路面清掃車	2	稼働中	9月27日～
中部地整	長野県木曾郡木曾町（開田高原保険休養地内町道）	降灰清掃	散水車	3	稼働中	9月27日～
中部地整	長野県木曾郡王滝村（八海山登山口）	現地情報収集	衛星通信車	1	稼働中	9月27日～
中部地整	岐阜県下呂市小坂町（濁河温泉登山口）	現地情報収集	衛星通信車	1	稼働後撤収済み	9月27日～28日
中部地整	長野県木曾郡王滝村 王滝村役場	映像配信	Ku-SAT	1	稼働中	9月28日～

- ・9/27 19:10より^{ニゴリ}濁河温泉（下呂市側）の下山道にて国交省の照明車両による徒歩下山者支援を実施。

・9/28 3:00時点で照明車両5台が徒歩下山者および自衛隊等入山の支援のため稼働。
・木曽町の要請を受け、町道の降灰除去作業を中部地整の路面清掃車3台、散水車2台で実施。町道鹿ノ瀬線の降灰除去は4:20作業完了。

・衛星通信車2台、Ku-SAT1台によりヘリ画像等を通信中。

○防衛省と調整し、「9月28日12時00分から追って通知するまで、すべての有視界飛行方式で飛行する航空機は御嶽山周辺で救難活動が行われているため他の航空機に特に注意すること」を内容とする航空情報（ノータム）を28日11:51に発行。

【二次災害防止対策】

○9月28日、土砂災害防止法に基づく緊急調査に着手。

○OTEC-FORCEの派遣

・中部地方整備局より救助・下山支援および被災状況把握、応急対策実施等のため、13名派遣(9/27)、19名派遣(9/28)。

○防災ヘリコプターによる被害状況調査

・中部地方整備局防災ヘリコプターによる御嶽山上空からの調査を実施(9/27 15:20～)。山頂南西側大きく開いた3カ所の噴火口、山頂付近に厚さ50cmの降灰を確認。

・中部地方整備局防災ヘリコプターによる砂防専門家等の御嶽山上空からの降灰状況調査を実施(9/28、6:02～、9:30～)。噴火・降灰の状況把握と二次災害防止対策を検討するため実施(砂防専門家3名等)。

○地上における状況調査

・地上より降灰状況調査を実施中。

○関係自治体等への情報提供

・関係する県、市町村、関係機関等に救助活動等における土砂災害の留意事項を周知。

○今後の応急対策に資する備蓄資材を確保済み。

【その他】

○長野県道1路線で噴火による通行規制を14:20から実施中

上記の外に、町道鹿ノ瀬線、屋敷野線、千本松線、寒原倉越線、村道41号線について噴火による通行規制中

○気象庁発表の火山灰情報に基づき、火山灰の影響する高度、移動方向等に関する航空情報（ノータム）を27日12:21に発行。以降、継続して発行(11通目28日12:10)。

5. 気象庁の対応

○御嶽山の火山活動状況について、御嶽山周辺の地震計、空振計、傾斜計、遠望カメラ等の観測ネットワークにより、24時間体制で監視中。

○噴火警報等を発表するとともに、地元自治体をはじめ、関係機関に対する解説及び資料の提供を各地気象台より適宜実施。

○気象庁機動調査班(JMA-MOT)を現地に派遣して、噴火の状況や降灰の状況等の調査を実施(長野地方気象台:9月27日13時55分～、気象庁:9月27日15時40分～)

○降灰の拡がりについて気象台から自治体等への聞き取り調査を実施(9月27日～)

○火山活動状況に関して記者会見(9月27日14時30分)

○御嶽山山頂部における救助活動の実施にあたっての留意事項について長野・岐阜両県等関係機関に周知(9月27日)。

○長野県の災害対策本部会議に出席(9月27日～)

○長野県、岐阜県、各県内関係市町村及び地方整備局等の関係機関に対して、気象支援資料を提供(9月28日5時～1日2回の提供)

○国土交通省中部地方整備局のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認(9月28日午前)

6. 国土地理院の対応

- ・御嶽山の被害状況把握のため、空中写真撮影準備中（9月27日）
- ・御嶽山の噴火周辺地域の空中写真撮影を実施（9月28日）
- ・御嶽山の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供（9月28日）

7. 一般被害の状況

- 複数の入山者あり。噴石による重傷者もいる模様。山小屋に避難している人もいる模様。（14:30時点報道情報）
- 7名意識不明。8人大けが。（17:00政府発表）
- 消防庁情報（9月28日12:00現在）
 - ・人的被害
長野県：重症 1人、中等症 9人、軽症 20人、行方不明者 45人
※負傷者は、病院に搬送された者のほか、山小屋や下山者等から収集した情報を基に集計したものであり、行方不明者は、安否の確認を求められた人数を基に集計したものであるため、今後も変動し得る数字です。

岐阜県：重傷 2名、軽傷 5名

8. 所管施設等の状況

- 河川（9月28日15:00現在）
 - ・現時点で被害情報なし
- 管理ダム（9月28日15:00現在）
 - ・現時点で被害情報なし
- 道路（9月28日15:00現在）
 - ・現時点で被害情報なし
- 鉄道関係（9月28日15:00現在）
 - ・9月27日 12時55分より御嶽ロープウェイは運転休止
- 航空関係（9月28日15:00現在）
 - ・空港施設等被害情報なし
 - ・欠航便情報なし
- 自動車関係（9月28日15:00現在）
 - ・おんたけ交通 バス2路線運休中
- 海事関係（9月28日15:00現在）
 - ・現時点で被害情報なし
- 港湾関係（9月28日15:00現在）
 - ・現時点で被害情報なし
- 物流関係（9月28日15:00現在）
 - ・現時点で被害情報なし
- 下水道（9月28日15:00現在）
 - ・現時点で被害情報なし

○公園（9月28日15:00現在）

・現時点で被害情報なし

○宅地（9月28日15:00現在）

・現時点で被害情報なし

○公営住宅関連等（9月28日15:00現在）

・現時点で被害情報なし

○官庁施設（9月28日15:00現在）

・現時点で被害情報なし

○観光関係（9月28日15:00現在）

・現時点で被害情報なし

問合先：水管理・国土保全局防災課災害対策室 佐々木
代 表：03-5253-8111 内線35-822
直 通：03-5253-8461

17 国土地理院

平成26年9月28日
18時00分現在

「御嶽山の火山活動」に係る国土地理院の対応

1. 国土地理院の体制

- ・9月27日(土) 12:36 注意体制
- ・9月27日(土) 13:45 非常体制

2. 国土地理院の対応

【9月27日(土)】

航空機「くにかぜⅢ」が調布飛行場にて待機。

16:36 関係機関に対し、御嶽山の3D表示データを提供。

19:37 関係機関に対し、電子基準点解析結果の基線変化グラフを提供。

20:15 第1回国土地理院災害対策本部会議を開催。

【9月28日(日)】

08:51 関係機関に対し、御嶽山の火山基本図を提供。

09:10 航空機「くにかぜⅢ」が調布飛行場を離陸。

12:20 航空機「くにかぜⅢ」が空中写真撮影(斜め写真367枚)を実施し、調布飛行場へ帰港。

14:16 関係機関に対し、斜め写真(速報)を提供。

15:54 関係機関に対し、斜め写真367枚を提供
(別紙:御嶽山頂付近の撮影写真)。

17:05 関係機関に対し、斜め写真による正射画像を提供。

【今後の予定】

9月28日(日) 20時頃 国土地理院HPに斜め写真等を公開予定。

9月29日(月) 航空機「くにかぜⅢ」による再撮影を実施予定。

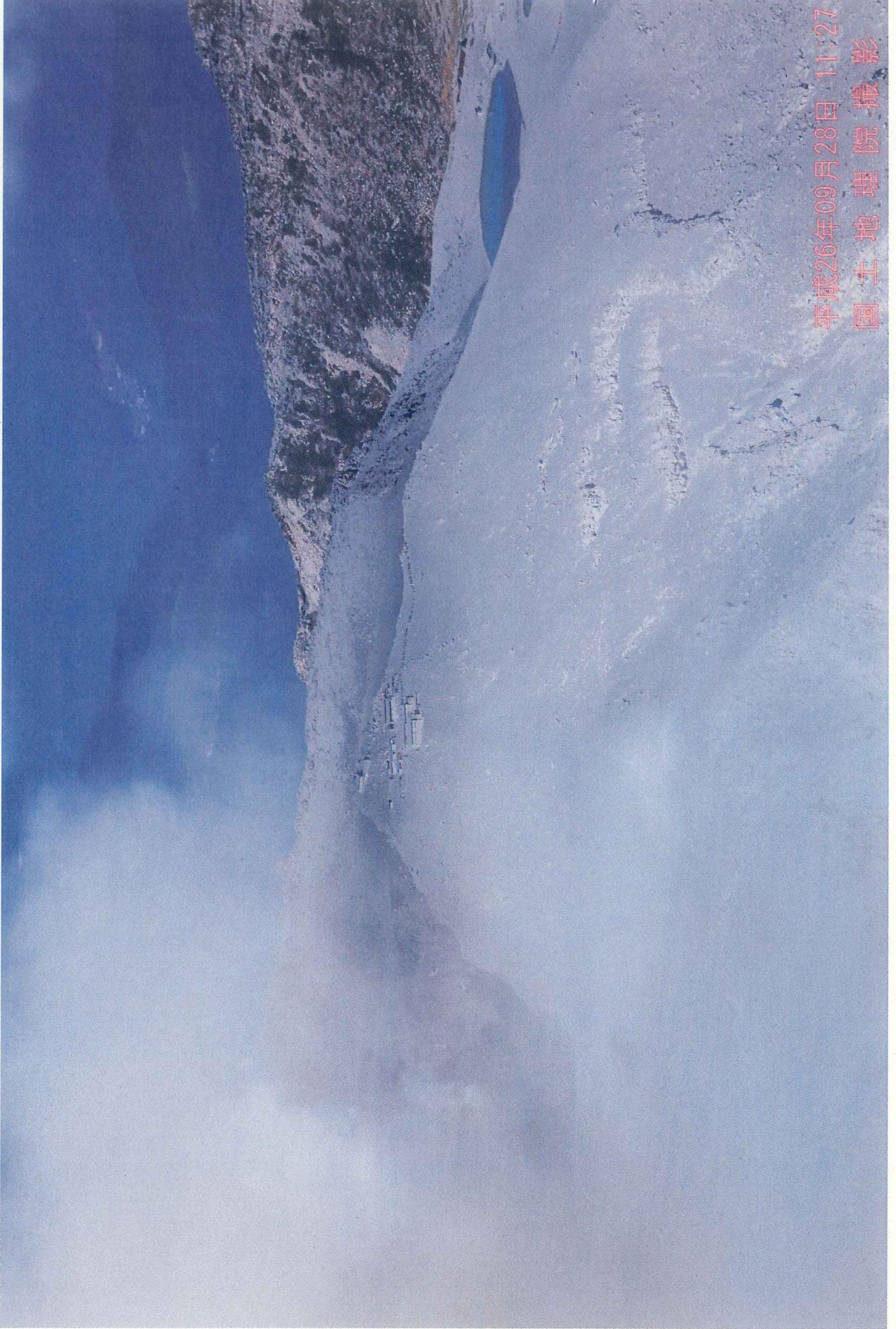
以上

御嶽山の斜め写真【御嶽頂上山荘】

国土交通省



国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan



平成26年09月28日 11:27

国土地理院撮影

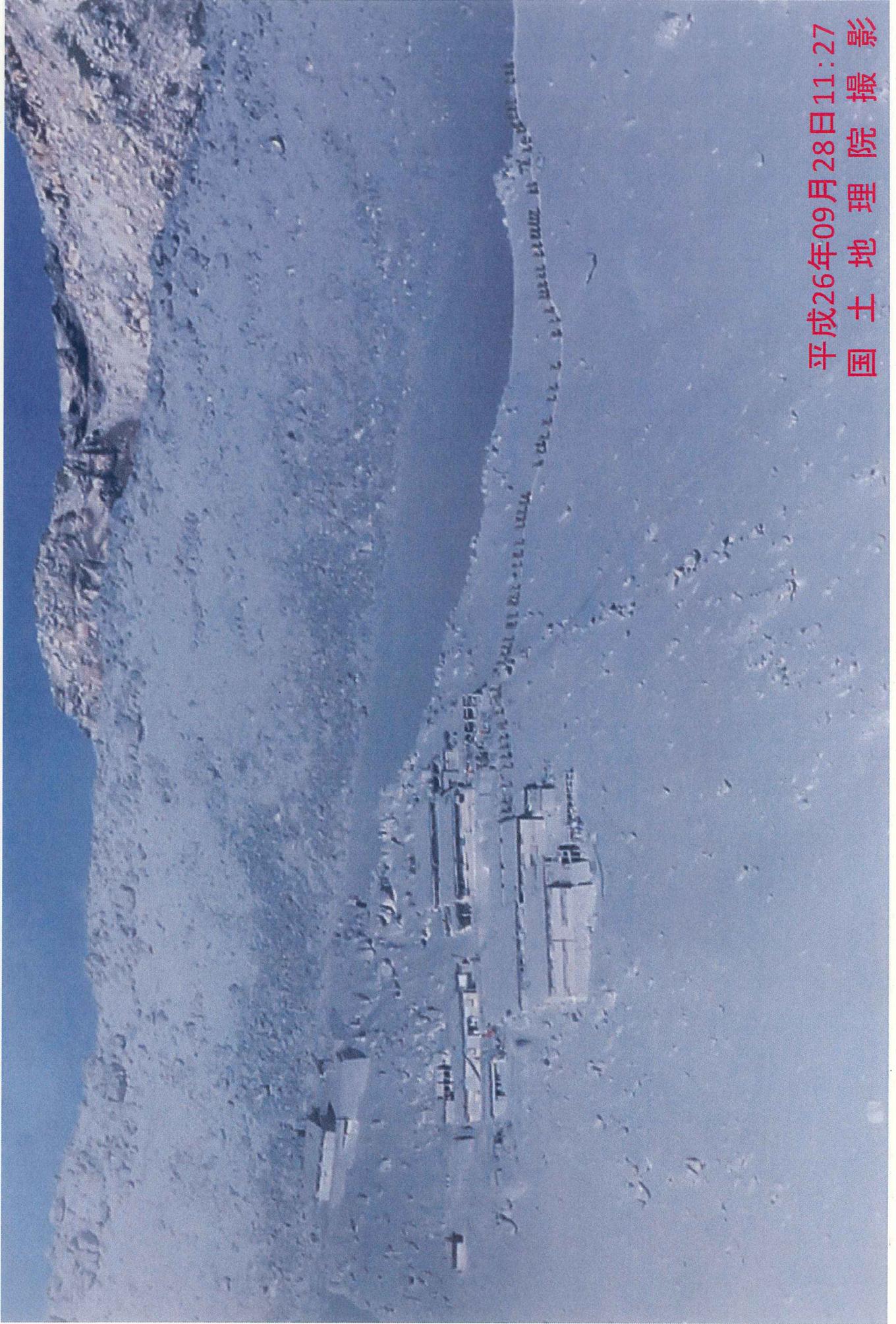
御嶽山の斜め写真

【御嶽頂上山荘拡大写真】

国土交通省



国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan



平成26年09月28日11:27

国土地理院撮影

御嶽山の噴火状況等について

※これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。
 ※下線部は、前回からの変更箇所。

平成26年9月28日
 18時00分現在
 非常災害対策本部

1 火山活動の状況等（気象庁情報：9月28日15時現在）

(1) これまでの火山活動状況等

- ・9月27日11時41分頃から火山性微動が発生し始め、同11時52分頃に噴火が発生した。中部地方整備局が設置している滝越カメラによれば南側斜面を3キロメートルを超えて流れ下る噴煙を観測したため、噴火警戒レベル3（入山規制）を発表し、火口から4キロメートル以内に立ち入らないように呼びかけている。なお、火山性微動が継続していることから現在も噴火が継続していると推測される。
- ・御嶽山で噴火が発生したのは2007年（平成19年）3月下旬のごく小規模な噴火以来のこと。
- ・9月27日に気象庁が降灰の拡がりについて聞き取り調査を行った結果、御嶽山の西側の岐阜県下呂市萩原町から東側の山梨県甲府市飯田にかけての範囲で降灰が観測されている。
- ・9月28日中部地方整備局の協力で実施した上空からの観測によると、御嶽山山頂付近に北西から南東方向に伸びる火口列が見られ、複数の火口から白色の噴煙が勢いよく火口上1,000メートルまで上昇するのが認められ、ときおり火山灰交じりの薄灰色の噴煙が認められた。

【噴火警報の発表状況等】

○9月27日12:36 噴火警報発表（火口周辺警報）

噴火警戒レベル1（平常） → レベル3（入山規制）

※噴火警戒レベル3は、平成20年3月31日の御嶽山の噴火警戒レベルの運用開始以来初めて。

○対象市町村等

- ・長野県：王滝村、木曾町
- ・岐阜県：高山市、下呂市

○防災上の警戒事項

- ・火口から4キロメートル程度の範囲では大きな噴石の飛散等に警戒が必要
- ・風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要
- ・爆発的な噴火に伴う大きな空振に注意が必要

○9月27日13時35分 ～ 降灰予報を約6時間毎に発表し、降灰の予想される地域を図示

(2) 気象の見通し

- ・28日15時現在、御嶽山の山頂付近では、3メートル程度の北よりの風が吹いていると見られる。28日は、夜まで、1～3メートル程度の北よりの風が続く見込み。
- ・長野県南部、岐阜県飛騨地方の天気は、28日、29日共に、高気圧に緩やかに覆われて概ね晴れるが、朝晩は湿った空気の影響で雲が多い見込み。

2 人的・住家被害の状況（警察庁情報：9月28日16:20現在）

(1) 人的被害

【長野県】

心肺停止 31名（うち4人を搬送中）

負傷者 30名

※負傷者30人は、病院に収容された負傷者数

【岐阜県】

負傷者 7名

- (2) 住家被害
確認中

3 避難等の状況

- (1) 避難等の状況（警察庁調べ：9月28日16:20現在）
- ・9月27日15:15頃、頂上山荘約100人の登山者は下山開始との情報。御嶽神社の山小屋の46人については、下山中との情報。
 - ・五の池小屋の残留者については、岐阜県警察山岳警備隊等の誘導により下山を開始。
 - ・これまでに、230人程度の下山を確認。（9月27日19:25現在）
 - ・山小屋等に残留していた生存者は全員下山。残留者なし（9月28日16:20）

4 その他の状況

- (1) 道路関係（国土交通省調べ：9月28日7:00現在）
- ・現時点で被害情報なし
 - ・長野県道2路線で入山規制に伴う事前通行規制を14:20から実施中
- (2) 鉄道関係（国土交通省調べ：9月28日7:00現在）
- ・御嶽ロープウェイは運転休止（9月27日12:55）。
- (3) 文教施設関係（文部科学省調べ：9月27日19:00現在）
- ・現時点において、被害情報なし
- (4) その他

- (7) DMATの活動関係（厚生労働省調べ：9月28日16:00現在）
- ・長野県がEMISを災害モードに切り替え（9月27日15:43）
 - ・岐阜県がEMISを警戒モードに切り替え（9月27日18:05）
 - ・岐阜県がEMISを災害モードに切り替え（9月27日22:14）
 - ・岐阜県がEMISを警戒モードに切り替え（9月28日14:29）
 - ・長野県から近隣5県に対しDMATの派遣要請（9月27日20:00）
 - ・長野県はDPATの派遣を決定（9月28日12:41）
 - ・DMATの展開状況（9月28日11:00現在）

長野県側（計34チーム）		岐阜県側（計2チーム）	
長野県庁	3チーム	岐阜県庁	1チーム
長野県立木曽病院	28チーム	岐阜大学医学部付属病院	1チーム
信州大学医学部附属病院	3チーム		

5 政府の主な対応

(1) 官邸の対応

- ・情報連絡室を設置（9月27日13:23）
- ・官邸連絡室へ改組（9月27日14:30）
- ・官邸対策室へ改組（9月28日14:00）

(2) 総理指示

- ・御嶽山の火山活動に関し、安倍内閣総理大臣から以下の指示が発せられた。（9月27日14:30）

1. 早急に被災状況の把握を行うこと
2. 被災者の救助に総力を挙げるとともに、避難誘導等登山者や住民の安全の確保に万全を期すこと
3. 火山の観測を強化し、登山者及び住民に対する迅速的確な情報提供を行うこと

(3) 非常災害対策本部の設置等

- ・御嶽山噴火に係る関係省庁担当者会議を開催（9月27日15:00）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）、松本内閣府大臣政務官出席のもと、関係省庁災害対策会議を開催し、今後の活動の見通し及び被害状況並びに各省庁の対応状況について情報共有を行った（9月27日16:40）
- ・関係閣僚会議を開催（9月27日）
- ・関係省庁関係局長級会議を開催（9月27日19:28）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）出席のもと、関係省庁災害対策会議（第2回）を開催し、阿部長野県知事、山岡名古屋大学大学院環境学教授とテレビ会議を行うとともに、今後の活動の見通し及び被害状況並びに各省庁の対応状況について情報共有を行った。（9月28日13:00）
- ・西村内閣府副大臣を団長とする政府調査団を長野県に派遣（9月28日12:50）
- ・内閣危機管理監より捜索関係省庁担当局長に対し、以下の内容が通知された。（9月28日14:30）
 1. 被害者の迅速な救出・救命に全力を尽くすこと
 2. 火山活動の監視、滑落の防止等、捜索従事者の安全確保に万全を期すこと
 3. 危険を察知した場合には、直ちに作業を中止し、安全なところに退避すること
- ・御嶽山の噴火により多数の犠牲が生じており、なお多数の行方不明者が存在するという事態を踏まえ、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第24条第1項の規定に基づき、平成26年（2014年）御嶽山噴火非常災害対策本部を格上げ設置した。（9月28日17:00）

(4) 自衛隊の災害派遣

① 概要

- ・要請日時 平成26年9月27日14:31
- ・要請元 長野県知事
- ・要請先 陸上自衛隊第13普通科連隊長（松本）
- ・要請の概要 人命救助
- ・発生場所 長野県御嶽山

② 活動規模

- ・人員 約250名
- ・車両 約70両
- ・航空機 7機

(5) 災害救助法の適用

- ・平成26年9月27日の御嶽山噴火により、多数の者が生命又は身体に危害を受け、又は受けるおそれが生じており、継続的に救助を必要としているため。
長野県：木曾郡木曾町（きそぐんきそまち）（9月27日適用）
木曾郡王滝村（きそぐんおうたきむら）（9月27日適用）

6 各府省庁の対応

(1) 内閣府の対応

- ・情報対策室を設置（9月27日 12:36）
- ・内閣府参事官を団長とする情報先遣チーム（団長以下3名）を長野県へ派遣（9月27日）

(2) 警察庁の対応

- ・災害情報連絡室設置（9月27日 13:23）
 - ・災害警備連絡室へ改組（9月27日 14:30）
- 【警察措置】
（9月27日）
- ・長野県警がヘリにより情報収集
 - ・長野県警察機動隊 12 人出動（9月27日 13:55）
 - ・長野県警察管区機動隊員約 70 人出動（9月27日 14:17）
 - ・長野県警察機動隊、管区機動隊は登山口の黒沢口、王滝口、開田口で各 10 人が待機
 - ・岐阜県警察山岳警備隊 3 人は登山客等とともに五の池小屋に残留
 - ・長野県警察は、警察本部及び木曾警察署に登山者に関する情報・相談フリーダイヤルを設置。（県警本部：0120-008-046、木曾警察署：0120-007-285）
 - ・岐阜県警察は、相談ダイヤルで情報を受付。（県警本部：058-271-2424、下呂署：0576-52-0110、高山署：0577-32-0110）
 - ・現地指揮所を田の原観光センターに設置。

（9月28日：12:00 現在）

- ・長野県警察及び岐阜県警察のヘリテレ映像を官邸等に送信
- ・長野県警察は、7:40 から黒沢口より 16 人、9:56 から王滝口より 27 人が消防及び自衛隊とともに登頂を開始。既に山頂付近に到着し、救出救助活動を実施中。
- ・岐阜県警察は、4:30 から山岳警備隊等 11 人が市職員 14 人及び DMAT2 人とともに登頂、6:15 から五の池小屋の残留者の下山誘導を実施、11:19 に全員無事下山。また、総勢 80 人体制で災害警備活動を実施。
- ・岐阜県警察が、ヘリにて五の池小屋かた下山中の 40 歳女性をホイスト救助。
- ・警視庁はヘリ 1 機を派遣。到着後、ヘリテレによる情報収集等を実施予定。

(3) 消防庁の対応

- ・災害対策室設置（9月27日 14:30）
- ・消防組織法第 44 条第 1 項に基づき、消防庁長官から火山性ガス検知資機材（LCD3.3）を保有する高度救助隊及び山岳救助隊について、愛知県、静岡県、東京都、山梨県の 4 都県に対して出動要請（9月28日 20:30）
- ・緊急消防援助隊の活動調整等のため、消防庁職員 1 名を長野県に派遣（9月28日 6:00）

【消防機関の活動】（9月28日 12:00 現在）

<<地元消防機関の活動状況>>

長野県：木曾広域消防本部が約 60 名体制で活動。

長野県防災ヘリコプター1機が救急搬送等に備え、松本空港に待機

木曾町消防団及び王滝村消防団が約 20 名体制で活動

岐阜県：下呂市消防本部が約 10 名体制で活動。

岐阜県防災ヘリコプター1機が救急搬送等に備え、濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターに待機

下呂市消防団幹部が下呂市災害対策本部で活動

<<県内応援消防本部の活動状況>>

- 長野県： 県内13本部(木曾広域消防本部を除くすべての消防本部)が約100名体制で活動。
- 岐阜県： 岐阜市消防本部及び高山市消防本部が約10名体制で活動。

<<緊急消防援助隊>>

- ・9月27日20時30分、長野県知事から消防庁長官に対して、緊急消防援助隊の派遣要請。
- ・ただちに消防組織法第44条第1項に基づき、消防庁長官から火山性ガス検知資機材(LCD3.3)を保有する高度救助隊及び山岳救助隊について、愛知県、静岡県、東京都及び山梨県の4都県に対して、出動要請。
- ・愛知県、静岡県、東京都及び山梨県の各隊合計約200名体制で活動。
(内訳) 東京都隊約60名、山梨県約50名、静岡県隊約40名、愛知県約50名
(参考)
指揮支援隊として、長野県庁で東京都隊1隊3名、木曾広域消防本部で愛知県隊1隊5名が活動。陸上隊は、進出拠点(道の駅 木曾市場)に28日4時に到着した後、各災害現場において活動。
- ・東京消防庁ヘリコプター(消防庁ヘリ/ヘリサット搭載)が情報収集活動を実施。

(4) 金融庁の対応

- ・災害救助法の適用決定を受け、長野県内の関係金融機関等に対し、財務省関東財務局長野村務事務所長と日本銀行松本支店長の連名で「御嶽山噴火にかかる災害に対する金融上の措置について」を发出し、預金の払戻時の柔軟な取扱い等、被災者の便宜を考慮した適時的確な措置を講ずるよう要請(9月28日)

(5) 国土交通省の対応

○リエゾンの派遣

- ・中部地方整備局より、長野県庁へ2名派遣(9/27)、3名派遣予定(9/28)、長野県王滝村2名(9/27~28)、長野県木曾町1名(8/27~28)、岐阜県庁へ1名派遣(9/27)、2名派遣予定(9/28)、岐阜県高山市へ2名派遣(9/27~28)、岐阜県下呂市へ2名派遣(9/27~28)。
- ・北陸地方整備局より、岐阜県高山市へ1名派遣(9/27)。

○専門家の派遣

- ・国総研、土研より砂防専門家3名を派遣中

○災害対策用機械等出動状況

- ・照明車5台、路面清掃車3台、散水車3台、衛生通信車2台、Ku-SAT1台が出動。
- ・9月27日19:10より濁河温泉(下呂市側)の下山道にて国交省の照明車両による徒歩下山者支援を実施。
- ・9月28日3:00時点で照明車両5台が徒歩下山者および自衛隊等入山の支援のため稼働中。
- ・木曾町の要請を受け、町道の降灰除去作業を中部地整の路面清掃車3台、散水車2台で実施中。
- ・衛生通信車2台、Ku-SAT1台によりヘリ画像等を通信中。

○二次災害防止対策

- ・中部地方整備局防災ヘリコプターによる御嶽山上空からの調査を実施(9/27、15:20~)。
山頂南西側大きく開いた3カ所の噴火口、山頂付近に厚さ50cmの降灰を確認。
- ・防災ヘリコプターによる緊急調査を実施(砂防専門家3名、気象庁1名等)(9月28日5:45~)

○その他

- ・長野県道1路線、木曾町道1路線、大滝村道1路線で入山規制に伴う事前通行規制を実施中
- ・気象庁発表の火山灰情報に基づき航空情報(ノータム)を発行(27日12:21)

(6) 文部科学省の対応

- ・ 災害情報連絡室設置 (9月27日16:40)
- ・ 関係県教育委員会に対し、児童生徒等の安全確保と文教施設の被害状況の把握、二次災害防止を要請 (9月27日17:50)

(7) 厚生労働省の対応

- ・ 厚生労働省情報連絡室を設置 (9月27日15:00)
- ・ 厚生労働大臣指示
 - ① 関係地方自治体と連携し、状況の把握に努めること
 - ② 被災者の人命救助のため、医療の提供に万全を期すこと。

(8) 気象庁の対応

- ・ 御嶽山の火山活動状況について、御嶽山周辺の地震計、空振計、傾斜計、遠望カメラ等の観測ネットワークにより、24時間体制で監視中。
- ・ 噴火警報等を発表するとともに、地元自治体をはじめ、関係機関に対する解説及び資料の提供を各地気象台より適宜実施。
- ・ 気象庁機動調査班(JMA-MOT)を現地に派遣して、噴火の状況や降灰の状況等の調査を実施(長野地方気象台:9月27日13:55~、気象庁:9月27日15:40~)
- ・ 降灰の拡がりについて気象台から自治体等への聞き取り調査を実施(9月27日~)
- ・ 火山活動状況に関して記者会見(9月27日14時30分)
- ・ 御嶽山山頂部における救助活動の実施にあたっての留意事項について長野・岐阜両県等関係機関に周知(9月27日)
- ・ 長野県の災害対策本部会議に出席(9月27日~)
- ・ 長野県、岐阜県、各県内関係市町村及び地方整備局等の関係機関に対して、気象支援資料を提供(9月28日5時~ 一日2回の提供)
- ・ 国土交通省中部地方整備局のヘリに同乗し、上空から御嶽山の火山活動の状況を確認(9月28日午前)

災害応急対策に関する基本方針 ~~案~~

平成 26 年 9 月 28 日

平成 26 年 (2014 年) 御嶽山噴火

非常災害対策本部

関係地方公共団体と連携を密にし、国民の生命、財産を守るため、対応に全力を尽くす。

- ① 引き続き、行方不明者の安否確認、救助に全力を尽くすこと
- ② 噴石、火山ガス、土石流発生などによる二次災害を防止し、救助活動の安全確保に万全を期すこと
- ③ 火山活動に対する徹底した監視体制を確保し、さらなる被害の拡大防止を図ること